

2019年度

# 基礎看護学実習Ⅱ

[表紙1]

【提出記録用紙】

- 1 実習評価表
- 2 課題レポート
- 3 日々の体験記録
- 4 実習前レポート

学生証番号：                    K F \_\_\_\_\_

学生氏名   ： \_\_\_\_\_

実習期間   ：        月    日    ~    月    日

実習施設名： \_\_\_\_\_

担当教員名： \_\_\_\_\_

指導者名   ： \_\_\_\_\_

看護学科2年 専門教育科目

2019年度

## 基礎看護学実習Ⅱ

[表紙2]

【提出記録用紙】

- 5 実習計画表
- 6 アセスメント用紙1
- 7 アセスメント用紙2
- 8 問題リスト
- 9 看護過程展開用紙
- 10 (プロセスレコード)
- 11 合同カンファレンス資料

学生証番号：                    K F \_\_\_\_\_

学生氏名   ： \_\_\_\_\_

実習期間   ：        月    日    ~    月    日

実習施設名： \_\_\_\_\_

担当教員名： \_\_\_\_\_

指導者名   ： \_\_\_\_\_

看護学科2年 専門教育科目

授業科目名：基礎看護学実習Ⅱ

単位／時間：2単位／90時間

対象／開講：18KF／2年生 前期

担当教員：山口 由子、蔵本 文乃、千葉 美果、中川 三穂、牧原 和子、高柳 朋恵、  
丹澤 洋子、端山 淳子、座波 ゆかり、武田 清香、青山 泉、吉田 裕子、  
瓜生 佳織、佐藤 えみ、本田 絵美

ディプロマポリシーとの関連： 該当する 特に該当する

- 1. 人間の生命と尊厳および権利を尊重した行動がとれる。
- 2. 自律した一人の人間として、社会や他者へ責任のある行動がとれる。
- 3. その人らしい生活を整える視点を持つことができる。
- 4. 科学的根拠に基づいた知識及び技術を用いて、対象にあった看護を計画的に提供できる。
- 5. 問題意識を持ち、学び続けることができる。
- 6. 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を自覚し、主体的に行動できる。
- 7. 社会の変化に伴って生じる保健医療福祉の問題に関心をむけ、倫理的課題への感受性を高め、責任ある行動がとれる。
- 8. 幅広い視点から対象を理解し、経験を統合して自分のめざす看護が述べられる。

**【目的】：**

対象理解し、その人の生活過程を整える看護実践を通して、看護について考える。

**【中核目標】：**

- I 対象とのあたたかい人間関係を築くことができる。
- II 看護過程を展開し、その人の生活過程を整えるための看護の実践方法を理解できる。
- III 看護実践を通して自己をみつめ、看護観を深めることができる。

中核目標 I 対象とのあたたかい人間関係を築くことができる。

行 動 目 標

1. 対象に対して、誠実な態度で関わることができる。
2. 対象の言動をありのままに受けとめることができる。
3. 対象の言動の意味を考え、対象の思いに関心を寄せることができる。
4. 対象の思いと自分がとらえたことにズレがないかを確認することができる。
5. 対象とのかかわりを振り返り、自分と対象の言動について考えることができる。

中核目標 II 看護過程を展開し、その人の生活過程を整えるための看護の実践方法を理解できる。

行 動 目 標

1. 看護の視点から、対象をどのように理解したかを説明することができる。
2. 対象の問題を述べることができる。
3. 対象の問題の原因・誘因や成り行きについて説明することができる。
4. 対象の問題解決能力と限界について説明することができる。
5. 対象の望ましい状態を考え、対象とともに目標を設定することができる。
6. 対象の個別性や強みを活かしながら具体策を立案することができる。
7. 具体策に基づいた看護援助を安全・安楽・自立を配慮して実施できる。
  - 1) 実施に伴う留意事項を述べることができる。
  - 2) 看護援助の安全をふまえて実施できる。
  - 3) 看護援助の安楽をふまえて実施できる。
  - 4) 対象の自立度や強みを活かして実施できる。
  - 5) 対象の反応を確認しながら実施できる。
  - 6) 実施した結果を評価できる。
8. 看護過程を評価・修正する方法を述べることができる。

中核目標 III 看護実践を通して自己をみつめ、看護観を深めることができる。

行 動 目 標

1. その人を理解して看護していくことの重要性を体験に基づいて述べることができる。
2. 生活過程を整えることの看護の意義と役割について自分の考えを述べることができる。
3. 自分の思いや感情から自分自身について考えてみる姿勢がもてる。
4. 学習課題を自ら発見し、主体的に学習する姿勢を示すことができる。



基礎看護学実習Ⅱ 評価表															
			学生証番号			実習場所			病棟						
			学生氏名			実習期間			～						
項目	内 容					自己評価			臨床評価			教員評価			
						良 い	ふ つ う	努 力 を 要 す る	良 い	ふ つ う	努 力 を 要 す る	良 い	ふ つ う	努 力 を 要 す る	
学習方法の選択	1. 実習計画														
	1) 週間および日々の実習目標の設定					□□□			□□□			□□□			
	2) 実行可能な具体的な計画の立案					□□□			□□□			□□□			
	2. 日々の体験からの気づきと学び					□□□			□□□			□□□			
3. 集団学習の企画・運営・役割遂行					□□□			□□□			□□□				
4. 文献の活用(文献の探索・文献内容の理解・自己学習への活用)					□□□			□□□			□□□				
実習に臨む準備	1. 実習に対する関心・問題意識・課題					□□□			□□□			□□□			
	2. 実習目的・目標・実習方法の理解と確認					□□□			□□□			□□□			
	3. 実習に必要な知識・技術の予習・復習					□□□			□□□			□□□			
	4. 日常生活の調整と健康管理					□□□			□□□			□□□			
学習態度	1. 自主的・積極的な課題への取り組み					□□□			□□□			□□□			
	2. 相互の学習の共有					□□□			□□□			□□□			
	3. 他者との協調					□□□			□□□			□□□			
点数						/102			/102			/102			
目標達成度						%			%			%			
出席				欠席				遅刻				早退			
自己評価	*実習を振り返って、達成できた点と今後の課題を具体的に記述してください。					臨床指導者評価			サイン _____ 印 サイン _____ 印						
						教員評価									
						あり 普通 なし 学習における充実感 □□□						サイン _____ 印			
総合評価										S ・ A ・ B ・ C ・ D ・ E					

## 【実習方法】

1. 事前学習をして実習に臨む。
  - 1) 実習レポート課題：テーマ「実習に対する期待や思い（どんな実習にしたいか）」  
A4 レポート用紙2～3枚にまとめ、実習担当教員へ提出する。
  - 2) 実習に必要な知識・看護技術（生活過程を整える看護・基礎看護技術）の復習：各担当教員と相談し、内容及び日程を計画し実施する。
2. 実習時間は原則として8：30～16：30とする。
3. 実習する病棟に関して、実習初日に病棟オリエンテーションを受ける。
4. 実習にあたっては、「実習計画」を立案し、指導を受けて実習を行う。実習時間および内容に関しては、状況によって変更することもある。
5. 日々の実習に対して、「日々の実習体験記録」を記載し、翌朝臨床指導者に提出する。
6. 受け持ち患者を一人受け持つ。
7. 病棟実習では、受け持ち患者との対話、あるいはその患者に行われているケアを見学したり看護師とともにケアに参加したりしながら、対象理解を深める。
8. 受け持ち患者に関して、臨床指導者や教員の指導を受けながら看護過程の展開を行い、対象理解およびその対象の看護を考え実践していく。
9. 看護ケアの実施は、必ず臨床指導者または教員と共に行う。実施する看護技術は、「生活過程を整える援助」であり、与薬・注射・採血などの「治療・検査に伴う援助技術」は行わない。
10. 原則として、毎日カンファレンスを行う。
  - 1) カンファレンスの企画・運営は学生が主体で行う。
  - 2) 司会、書記およびタイムキーパーなどの役割を決め、実習中に全員がそれぞれの役割を体験できるようにする。
  - 3) カンファレンスでは積極的に意見交換を行い、自己の考えを深めるとともに自己理解および相互理解を深める場にしていく。
11. 実習のまとめとして、合同カンファレンスを行う。各自の実習での学びの発表およびそれらについて意見交換することを通して、学びの共有や自己の学びを深める機会とする。
12. 実習は、実習計画に沿って行うが、患者の状況によって予定を変更する場合もある。
13. 実習終了時に、課題レポート「基礎看護学実習Ⅱを通して学んだこと」を作成し、実習記録提出時に一緒に提出する。

尚、課題レポートにはサブテーマをつけること(A4 レポート用紙2,3枚にまとめ、表紙をつける)。

## 【実習記録と提出方法】

1. 実習評価表
2. 課題レポート
3. 日々の体験記録
4. 実習前レポート
5. 実習計画表
6. アセスメント用紙1
7. アセスメント用紙2
8. 問題リスト
9. 看護過程展開用紙
10. (プロセスレコード)
11. 合同カンファレンス資料

\*記録の提出……実習終了後、指示された日時、場所に提出すべき記録類を2種類に分けて提出する。表紙1は1～4の順に紐で綴じ、表紙2は5～11の順に重ね、それぞれに背表紙をつけて綴じる。

【実習評価】

1. 評価は、実習の事前学習、実習中の行動・態度、実習中および実習終了後に提出された記録類など、実習の全プロセスをその対象とし、評価表に基づいて行う。
2. eラーニングの学習履歴も評価対象である。
3. 実習評価にあたっては、最終評価の前に学生・臨床指導者・教員の3者で面接を行い、実習目的・目標の達成度や今後の課題などについて話し合い、共有する。その際、学生は評価表に沿って自己評価を記載して面接に臨む。
4. 評価は、評価表をもとに学生の自己評価と臨床指導者及び教員の評価によって行う。最終評価はS・A・B・C・D・Eで判定する。

成績評価の方法

評価表の各項目の評価基準は、以下3段階とする

- ・良い：3点（80%以上達成している場合）
- ・ふつう：2点（60～79%達成している場合）
- ・努力を要する：1点（達成度が60%未満）



18KF 基礎看護学実習Ⅱ 実習計画

	月/日	AM	PM
1	7/22 (月)	実習オリエンテーション 看護部長のお話 休憩 指導者、教員と実習目的・目標、実習の進め方 など共有する 院内見学	病棟オリエンテーション 患者紹介 受持患者と関わりながら対象を理解する カンファレンス 翌日の計画について
2	7/23 (火)	受持患者への援助場面の見学および受持患者と 関わりながら対象を理解する	受持患者について理解できたことを整理する (データベースアセスメント)  カンファレンス 翌日の計画について
3	7/24 (水)	受持患者への援助場面の見学および受持患者と 関わりながら対象を理解する	受持患者への援助場面の見学および対象を理解する 受持患者について理解できたことを整理する (データベースアセスメント)  カンファレンス
4	7/25 (木)	受持患者への援助場面の見学および受持患者と 関わりながら対象を理解する	受持患者についてわかったことを整理し、必要な看護を見 出す(関連図、看護上の問題の抽出)  カンファレンス
5	7/26 (金)	受持患者への援助場面の見学および受持患者と 関わりながら対象を理解する	受持患者についてわかったことを整理し、必要な看護を見 出す(関連図、看護上の問題の抽出、ケアに向けての焦点 アセスメント・計画立案の方向性を確認する)  カンファレンス(全体像の発表) 翌週月曜日の計画について
6	7/29 (月)	計画に基づきケアを実施する	実施したケアの評価および看護上の問題に基づき立案した 計画の見直しを行う(焦点アセスメントや目標、具体策の 見直し、修正など)  カンファレンス
7	7/30 (火)	計画に基づきケアを実施する	実施したケアの評価および看護過程の評価を行う カンファレンス
8	7/31 (水)	計画に基づきケアを実施する	合同カンファレンス準備
9	8/1 (木)	合同カンファレンス準備	合同カンファレンス
10	8/2 (金)	評価面接、課題レポート	評価面接、課題レポート  記録提出

\*実習計画は、学生の学習状況及び患者の状態に応じて計画を変更することもあります。

# 実習計画表

週間実習目標	月 日 ( )		月 日 ( )	
	日々の目標			
実習内容	時間 受持患者	行動計画	時間 受持患者	行動計画
	実習 週 / 週	全実習 週 / 週	学生氏名 :	受持患者 :

# 実習計画表

	月 日 ( )		月 日 ( )		月 日 ( )	
日々の目標						
	時間 受持患者	行動計画	時間 受持患者	行動計画	時間 受持患者	行動計画
実習内容	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
	—		—		—	
実習 週 / 週		全実習 週 / 週		学生氏名 :		受持患者 :

情報とその意味 (解釈・分析)

生活行動 様式	
健康認識 健康管理	
呼吸・循環 体温調節	
栄養・代謝	
排泄	
活動・休息	
皮膚粘膜の 保全	
性・生殖	
感覚知覚 伝達	
自己像・ 自己実現	
役割・関係	
その他	

アセスメント用紙2 (対象の全体像)

受け持ち患者

学生証番号

学生氏名



\*関連図・図・絵などを用いて記載する



看護過程展開用紙

受け持ち患者

学生証番号

学生氏名

日 情報 (初期データ・追加データ) 実施の事実・結果・対象の反応	日 アセスメント (実施の評価)	日 問題点	日 患者目標	日 具体策
			目標の達成状況	

プロセスレコード

日時： 月 日

学生氏名： \_\_\_\_\_

患者概要：

プロセスレコードをとった理由：

場面状況：

私が知覚したこと	私が考えたり 感じたりしたこと	私が言ったり 行ったりしたこと	分析・考察

分析・考察を通してどのような気づきが得られたか



## 合同カンファレンスについて

### 基礎看護学実習Ⅱ

#### <目的>

学生が今回の実習で互いに自分の学びを発表し、質疑応答を通して学びを明確にしたり、学びを広げたり、深めていく。また、カンファレンスを主体的に運営していく力を養う。

#### <方法>

1. 日時：実習 2 週目に実施する。  
具体的なタイムスケジュール等は担当教員と相談しながら決定する。
2. 場所：カンファレンスルーム一覧参照（後日配布）。
3. グループ構成と参加者：2～3病棟合同で行う。参加者は、それぞれの病棟で実習した学生、病棟責任者および臨床指導者、担当教員。
4. 学生は一人ずつ資料を活用しながら発表する。
5. 学生が、司会・書記・タイムキーパーなどを分担し、主体的に運営する。

#### <発表までの準備>

1. 一人あたりの発表時間・質疑応答の時間・講評（臨床指導者・病棟責任者・教員からの意見・感想・評価など）の時間や休憩時間などを考え、合同カンファレンスのスケジュールを作る。
2. 合同カンファレンスの資料を準備する（何を発表したいのかを決め、必要時、臨床指導者・教員に相談する）。発表資料は、所定の用紙に以下の内容を参考にまとめる。

#### テーマおよびサブテーマ：

\*発表する内容のキーワードを含め、学んだことがわかるような具体的なテーマを考える。

#### 1. はじめに

\*このテーマを選んだ理由や何を学んだのかなど、このテーマで何をまとめ発表しようとしているのか簡潔にわかるように表現する。

#### 2. 患者紹介（患者の全体像）

\*発表内容を理解するために必要な患者の情報をまとめる。

\*患者の全体像がイメージできるようイラストなど工夫する。

\*その際、患者のプライバシーの保持に留意する。

#### 3. 対象への看護を通して学んだこと

1) 学びが得られた場面や状況

2) 何を学んだのか

\*できるだけ具体的に、他の人が読んでわかるように表現する。

#### 4. 今後の課題

\*対象への看護を通して学んだ内容から、今後どのように成長していきたいか、その成長に向けた自己の学習課題などを表現する。

3. 必要な資料の数を確認し、コピーや印刷が混み合うことを見越して、早めに準備する。  
準備した資料は、グループ毎・発表順にそろえ、その最初に表紙を付けて綴じ、指定の時間までに参加者全員に配布する。

○ 表紙の例

○○KF 基礎看護学実習Ⅱ 合同カンファレンス			
1. 日時・場所：			
2. 司会・記録・タイムキーパー：			
3. 発表順			
発表時間	実習病棟	発表者氏名	テーマおよびサブテーマ
9:00～	○○病棟	東海 はな子	

4. 事前にカンファレンスが行われる場所の広さや机・椅子の数を確認し、配置を考え、当日、カンファレンスの前に準備する（なるべくみんなの顔が見えるような配置が望ましい）。
5. 活発な意見交換ができるための工夫をする（どの学生も最低1回は質問したり、意見を述べるようにするなど）。
6. 合同カンファレンス終了後、配布した資料は確実にシュレッダーにかけ個人情報の保護に努める。

基礎看護学実習Ⅱ 合同カンファレンス資料

グループNo.

実習病棟

学生証番号

氏名

---

テーマ：

サブテーマ：